

9また、わたしはこの都を恐怖のもと、また嘲りの的とする。そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見てあざ笑う。またわたしは、包囲と、彼らの敵、いのちを狙う者がもたらす窮乏のために、彼らに自分の息子の肉、娘の肉を食べさせる。彼らは互いに、その友の肉を食べ合う。』

10そこであなたは、同行の人たちの目の前でその瓶を砕いて、

11彼らに言え。『万軍の【主】はこう言われる。陶器師の器が砕かれると、二度と直すことはできない。このように、わたしはこの民と、この都を砕く。人々はトフェトに空き地がないまでに葬る。』

12わたしはこの場所と——【主】のことば——その住民にこのようにする。わたしはこの都をトフェトのようにする。エルサレムの家々とユダの王の家々、すなわち、屋上で天の万象に犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いだすべての家々は、トフェトの地のように汚される。』」

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝

### 捕囚以前と現在の城壁の比較



旧約時代のエルサレムの領域は、エブス人やダビデ時代、ソロモン時代の拡張、ヒゼキヤによる拡張から一転、捕囚による破壊というように、幾度も変化を繰り返した。

そしてバビロンより帰還したネヘミヤによる城壁修復を経て、イエス時代の地図に至る。

その後ローマにより再びエルサレムは陥落する。現在の城壁はオスマントルコのスレイマン大帝によって再建されたもので、南端は北へ大きく後退した。

(地図は旧約時代のエルサレムの変遷)



希望の光バプテスト教会

2021年4月11日(日)

礼拝メッセージノート

## 「 エレミヤの象徴的行為～壊された器の惨状 」

| エレミヤ書講解-44 | エレミヤ書 19:1-13他 | 小野寺 望 牧師

### 【 エレミヤ書 19章 】

- 1【主】はこう言われる。「行って、土の焼き物の瓶を買い、民の長老と年長の祭司のうちの数人とともに、
- 2陶片の門の入り口にあるベン・ヒノムの谷に出かけ、そこで、わたしがあなたに語ることばを叫べ。
- 3『ユダの王たちとエルサレムの住民よ、【主】のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。見よ、わたしはこの場所にわざわいをもたらす。だれでもそのことを聞く者は、両耳が鳴る。
- 4彼らがわたしを捨てて、この場所を見知らぬ所としたからである。彼らはこの場所で、彼らも彼らの先祖も、ユダの王たちも知らなかったほかの神々に犠牲を供え、この場所を咎なき者の血で満たし、
- 5バアルのために自分の子どもたちを全焼のささげ物として火で焼くため、バアルの高き所を築いた。このようなことは、わたしが命じたこともなく、語ったこともなく、思いつきもしなかった。
- 6それゆえ、見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、もはやこの場所はトフェトとかベン・ヒノムの谷と呼ばれない。ただ虐殺の谷と呼ばれる。
- 7また、わたしはこの場所で、ユダとエルサレムのはかりごとを打ち砕く。わたしは敵の前で彼らを剣で倒し、
- 8また、いのちを狙う者の手によって倒し、その屍を空の鳥や地の獣に餌食として与える。

(4ページへ続く)

## ◆はじめに ～硬くなり砕かれる器の惨状

| 「粘土」と「陶器師」：本来はイスラエルと父である神の関係を表す表現。

### 1. 召し出したユダヤ民族に対する表現（信仰の有無ではない）

- (1) 当然ながら、応答することが求められ、かたくなな器は完全に砕かれる。
- (2) イスラエルは、世界に祝福をもたらすために召された祭司の民。

### 2. 選びの民は、豊かな祝福（霊的・物的）と共にひととき大きな責任を負う。

- (1) 偶像礼拝は神に対して最大の罪：ヒノムの谷で子を焼いてモレクに捧げていた。
- (2) 極度の貧困から、ヒノムの偶像のように、子たちの肉を貪り食うようになる。  
\* 神が予告した「剣」「疫病」「飢饉」「捕囚」のさばきの結果である。

### 3. クリスマンも、また福音を内に秘めた「神の器」である。（2コリ4：7-15）

## ◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神の良き器として用いられる

\* このメッセージは、良き器として用いられる信仰生活を送るためのものである。

## I ベン・ヒノムの谷での罪（1節）

### 1. 偶像礼拝と残虐行為

(1) 「瀬戸のかげらの門」（おそらく「糞の門」）

- ① 現在の糞門に当たる（城壁の位置が現在と異なるので、まったく同じではない）。エルサレムの南側に位置する、ヒノムの谷に一番近い門。
- ② 当時は町のごみや汚物が谷に廃棄され、常にそれを焼く煙が上がっていた。
- ③ 偶像の宮で子どもたちを全焼のいけにえとしてバアル（モレク）にささげていた。（5節、2：23）



(2) 参照 2列21：16 ～マナセ王の悪行

- \* マナセは偶像礼拝の上に、罪のない者の血を流す罪を犯した。
- \* 自分の子を殺し、自分と同じ偶像礼拝者の息子や娘の血を流した。
- \* やがてそこが「虐殺の谷」と呼ばれるようになる。

### 2. 神が怒りとエレミヤへの命令

(1) 神の想像をはるかに超える罪である。（5節）

(2) 神はまたエレミヤを通して目に見えるメッセージを発する。

\* 例：亜麻布のメッセージ（13章）、陶器師のメッセージ（18章）など

## II 焼き物の瓶のメッセージ

### 1. エレミヤへの命令

(1) 土の焼き物の瓶を買うこと（それはやがて砕かれる）

(2) 民の長老と年長の祭司のうちの数人とともに陶片の門（ヒノムの谷）に行け。

(3) 神のことはを叫べ：「ユダの王たちとエルサレムの住民よ、【主】のことはを聞け」（3節）

### 2. 命令の意図

(1) 神のことはが目に見える形で伝えられる：「焼き物を買う」「砕く」

(2) それは象徴的行為である：焼き物は「イスラエルの民」を表す。

(3) 民はもはや柔らかい粘土でなく、焼かれた堅い器になっていた。

① 当然そのままでは、神であっても形を整えることはできない。

(4) そのかたくなさゆえに、修復不可能なくらいに砕かれる。

\* この場所にわざわざをもたらす。聞く者は、両耳が鳴る：恐怖を表す表現

（1サム11：1、2列21：12）

### 3. エルサレムの民への裁きの啓示

(1) 罪状：① わたしを捨てて、この場所を見知らぬ所とした。

② この場所ではかの神々に犠牲を供え、この場所を咎なき者の血で満たし、バアルのために自分の子どもたちを捧げた。

③ 全焼のささげ物として火で焼くため、バアルの高き所を築いた。

④ これらは神が命じたこともなく、語ったことも、思いつきもしなかった。

(2) 裁き：① ここは「虐殺の谷」と呼ばれ、トフェト、ベン・ヒノムの谷と呼ばれない（7：29-8：3によると、汚れた民への見せしめの墓である。）

② 敵の前でエルサレム（ユダ）を倒し、その屍を獣に餌食として与える。

③ 神はエルサレムを恐怖のもと、また嘲りの的とする。

④ 包囲と、彼らの敵がもたらす窮乏のために、彼らに自分の息子の肉、娘の肉を食べさせる。彼らは互いに、その友の肉を食べ合う。』

(3) まとめ：① 瓶を砕いて語る：陶器師の器が砕かれると、二度と直せない。

③ それはエルサレムとその民である。④ 人々はトフェト（高き所）に空き地がないまでに葬る。⑤ この都をトフェトのようにする。

\* 屋上で天の万象に犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いだすべての家々は、トフェトの地のように汚される。（7：29-8：3では汚れたナジル人に例えられた。）

## ◆まとめ：神の良き器として用いられる～新約聖書における「神の器」

(1) 欠けやすくも、内に福音の宝を秘めた輝く器（2コリ4：7-15）

(2) 「誰でも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は貴いことに使われる器となる。」（2テモ2：21）：パウロから弟子テモテへの助言。

\* 偽教師と離れ、聖別された者として歩むことで、あらゆる良いわざに間に合う役に立つ器となる：きよさを保ち、聖霊に満たされて忠実に行動すること。

(3) 「器」を作り、整えてくださる陶器師（父）との歩みを楽しもう。

① クリスマン生活の第一優先：神様の御心に歩むこと。

② 神が任せてくださる奉仕を、喜んで忠実に取り組む時、また多くを与える。